

花木鉢物のわい化栽培：第3報異なる時期に処理をしたウニコナゾールPがベニゲンペイカズラの茎伸長に及ぼす影響

著者	福留 弘康
雑誌名	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書
巻	10
ページ	8-9
URL	http://hdl.handle.net/10232/2759

花木鉢物のわい化栽培

(第3報 異なる時期に処理をしたウニコナゾールPがベニゲンペイカズラの茎伸長に及ぼす影響)

福留弘康

(農学部附属農場)

緒言

指宿植物試験場の花木鉢物生産のなかで、近年ベニゲンペイカズラ (*Clerodendrum × speciosum* Lem.) の栽培に取り組んできている。しかし、ベニゲンペイカズラは茎が徒長しやすく、草姿がまとまりにくいという欠点が明らかとなった。今日、観賞用植物など茎の伸長抑制の目的でわい化剤を使用する例も多く、前報¹⁾までに、ベニゲンペイカズラにおいてもわい化剤の一種であるウニコナゾールPを葉面散布することにより、茎の伸長抑制が可能であることをみいだした。さらに、葉色の濃緑化や着花が促進されるなど今後の栽培に利用できる好結果が認められたことから、本実験では異なる時期毎にウニコナゾールPをベニゲンペイカズラに散布し、茎の伸長抑制及び着花の効果を検討した。

材料と方法

時期別の効果を検討するためにウニコナゾールP処理は、1999年11月、2000年3月と7月の3回行った。いずれの時期も以下のように栽培し、処理を行った。5号黒ポリポットに3本植えて栽培してあったベニゲンペイカズラの徒長枝を剪定し、草姿を整えた。ウニコナゾールPは市販のスミセブンP (ウニコナゾールP含有量0.025%, アグロス社製) を使用し、これを100倍に希釈し、1鉢当たり20mlを葉面散布した。対照区には蒸留水を用いた。両区とも5鉢を供試し、その後の管理は慣行法とした。また、肥料は尿素入りIB化成(10:10:10)を1鉢当たり3gずつ、生育の状況をみながら1度置肥した。

調査は、ウニコナゾールP処理以降に伸長した茎長と葉のSPAD値について毎週1回測定し、節数及び節間長は11月処理では処理後7週目に、3月、7月の両処理では処理後5週目に行った。また、着花及び花数については開花し、花弁が落ちた時点で数えた。SPAD値はミノルタ株式会社の葉緑素計SPAD-502を使用した。

結果と考察

茎の伸長量は、全ての処理時期において処理後2週から4週目にはウニコナゾールPによる明確な抑制作用がみられはじめ、ウニコナゾールP処理区が対照区より小となった。7月処理ではウニコナゾールP処理区が5週目以降急激に伸び始め、7週目には対照区と同じになった。処理区間で最も差が大きかったのは3月処理の4週目で27.9cmであった(第1図)。ウニコナゾールPの茎伸長抑制効果の持続期間は処理時期によって違いがみられ、気温が高くなる時期ほど持続期間が短くなる傾向が認められた。

ウニコナゾールP処理以降の葉のSPAD値(第1図)は、11月と7月処理ではウニコナゾールP処理区が常に対照区よりも高い値を示した。3月処理では、対照区がウニコナゾールP処理区を上回ったが、両処理区とも高い値で推移した。これは、処理直前に施肥をした影響と考えられる。

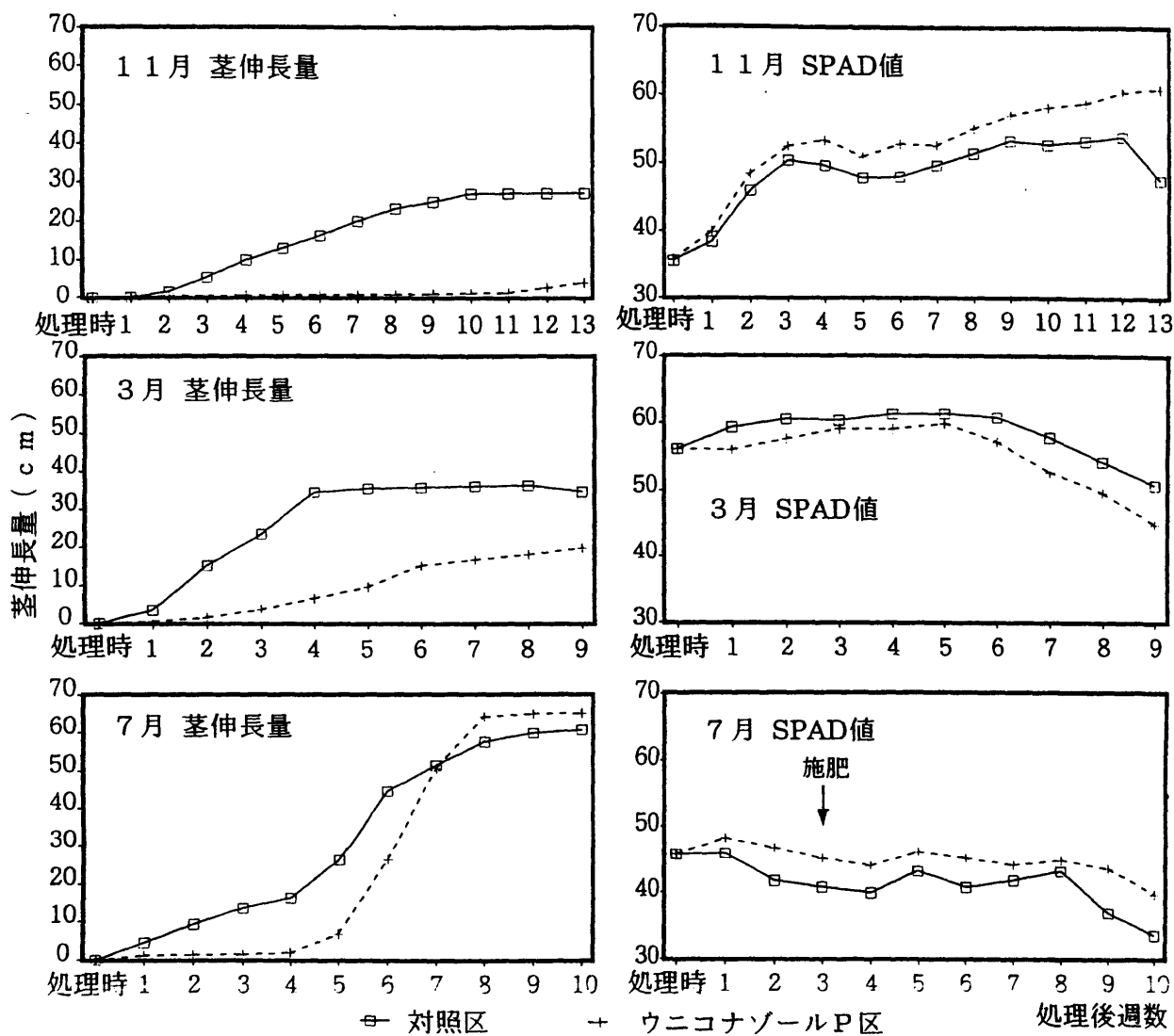
節数は、いずれの時期もウニコナゾールP処理区が、2.5~2.7節少なくなった。同様に節間長もウニコナゾールP処理区が短くなった。一般に、わい化剤はあまり節数には影響せず、節間長を短くすることが知られている。しかし、本実験では処理により節数も少なくなっており今後の検討課題である(第1表)。

花は、着花の時期である3月処理のウニコナゾールP処理区にだけみられ、花芽が肉眼で確認された時期は、処理後3週目(3月14日)であった。花数は平均28.3個であり、茎の伸長抑制作用だけでなく、着花の促進効果も認められた。また、展示即売会に向けて3月処理と同時に45鉢のベニゲンペイカズラにもウニコナゾールP100倍希釈液を葉面散布し、対照区として同数のベニゲンペイカズラに蒸留水を葉面散布した。その結果、着花は対照区12鉢に対して処理区は

22鉢となり、ウニコナゾールP処理区の鉢に多くの着花がみられた。

以上のことより、時期によって抑制期間に差はあるもののベニゲンペイカズラの茎の伸長はウニコナゾールPで抑制できることが明らかとなった。今後は、時期別のわい化剤処理の回数や最適濃度、花着きをよくするための方法を検討する予定である。

1) 福留弘康 2001 花木鉢物のわい化栽培 第2報 ベニゲンペイカズラの茎伸長及び着花に対するウニコナゾールPの作用. 鹿児島大学農学部農場技術調査報告書 9:20-21.



第1図 異なる時期のウニコナゾールP処理がベニゲンペイカズラの茎伸長量及びSPAD値に及ぼす影響

第1表 時期別に処理したウニコナゾールPがベニゲンペイカズラの節数および節間長に及ぼす影響

処理区	11月 (7週目)		3月 (5週目)		7月 (5週目)	
	節数	節間長(cm)	節数	節間長(cm)	節数	節間長(cm)
対照区	6.7	5.0	8.6	5.4	7.5	5.0
ウニコナゾールP	4.0	3.4	6.1	2.4	4.8	3.6